2025 年 9 月【吉川議員】一般質問

持続可能な除雪体制の最適化について

はい、承知いたしました。ご指摘の点を踏まえ、フィラーの除去、不自然な文の修正、漢字や表現の修正、そして「ふうに」への統一を徹底した最終版の文字起こしを以下に作成します。

持続可能な除雪体制の最適化について

[00:01] 議長： これより令和 7 年第 5 回庄原市議会定例会を再開いたします。ただいまの出席議員 19 名であります。よって直ちに本日の会議を開きます。本日の会議におきまして写真撮影、録音、録画を許可いたしております。これより日程に入ります。日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。会議規則第 88 条の規定により、議長において 7 番松本みのり議員、8 番國利知史議員をそれぞれ指名いたします。

[00:40] 議長： ここで発言の取り消しについてお諮りいたします。國利知史議員から 9 月 8 日の本会議における発言について、会議規則第 65 条の規定により取り消したい旨の申し出がありました。この取り消しの申し出を許可することに異議ありませんか。異議なしと認めます。よって、國利知史議員からの発言の取り消しの申し出を許可することに決定いたしました。

[01:09] 議長： 日程第 2、一般質問を行います。通告に基づき順次質問を許します。

[01:16] 吉川遂也 議員： 議席番号 12 番、会派未来の種、吉川でございます。議長の許しをいただきましたので、順次質問を進めていきたいと思います。今回は、冬季における市民の安全、安心な生活と地域経済を維持するための持続可能で効率的な除雪体制の最適化について質問をさせていただきます。本市は中国山地の内陸部に位置する地理的特性から、県内有数の豪雪地帯を抱えています。近年の気候変動は、降雪の時期や量に大きな変化をもたらし、短時間での集中豪雪、いわゆるドカ雪のリスクを高めています。一方で、本市の高齢化率は 44%を超え、除雪作業の担い手不足は年々深刻化しており、従来の除雪体制では市民の安全、安心な暮らしを守り、社会経済活動を維持することが困難になりつつあります。このような状況を踏まえ、市民の命と暮らしを守り、将来にわたって持続可能な除雪体制を構築するため、以下について市長の見解と今後の具体的な取り組みについて伺うものであります。激変する気候変動や超高齢化による除雪作業従事者の減少などの複合的なリスクに対し、現状の除雪体制にどのような課題があると認識しているのか。そして、これからの庄原市の除雪事業をどのように進めていくのか、市長の所見を伺うところであります。以下は質問席で行います。

[03:44] 市長： おはようございます。ご質問にお答えをいたします。本市における除雪事業につきましては、市道 2176 路線、1608km のうち約 79%に当たる 1707 路線、1273km の除雪を 54 事業者へ委託し、毎年 11 月中旬から翌年 3 月末までの期間において実施をしております。現状の除雪体制での課題といたしましては、除雪作業に従事できる人員の不足により、除雪作業の遅延や作業員の負担増加を懸念しているところでございます。この課題解決に向けまして、現在稼働している除雪機械の計画的な整備や老朽化した機器の更新を行い、作業効率の維持を行っております。その上で従来の建設業者だけでなく、個人事業者や農業法人、地元自治会等への発注も積極的に行い、作業体制の確保を進めております。これらの取り組みを通じて市民の皆様と共に今後も安定的な除雪対応を進め、雪に強い町を目指してまいります。

[05:37] 吉川遂也 議員： 先ほどの質問の際に述べましたが、近年の雪の降り方は明らかに変わってきているように感じております。極端な気候変動と言われるようになる前は、雪はしんしんと降り積もり、日々雪かきに追われ、住民も雪は降るものという風

に思って、それに備えた生活様式を取っていたように思います。しかし、近年は相対的に雪は少なくなってきておりますが、正月に雪がないという年も珍しくなくなってきました。しかし、降る時には湿った重い雪がいっぺんに降る。重い雪がドーンと降って 30cm、40cm、50cm、ある日には災害級と言えるような大雪が、ドカ雪ですが積もるということが、急に起こるという事態が増えてきております。それに伴って急な対応を迫られるという状況だと思いますが、雪の降り方に関して、見解があれば伺いたいと思います。

[06:50] 建設課長： ご質問にお答えします。議員おっしゃるように、雪の降り方が近年変わってきました。2 年前の 12 月クリスマスの時だったと思いますが、庄原市内一円で 40cm 並み、総領、庄原市内で 40cm 並み、東城高野では 80cm 並みの雪が 2 日で降ったということがありました。その時には市民の生活が麻痺するという状況も発生しております。昨年におきましても、しんしんと降る雪ではなく、3 回ドカ雪が降ったという形で、雪の降り方が近年は変わっていると、私たち市と除雪をする方としても認識しております。

[07:50] 吉川遂也 議員： 昨年は近年の中では大変雪が多い年だったように感じております。決算の中でも 6 億円を超えるような予算を使ったというお話が出てまいりました。最近、近年にわたっての除雪予算の推移、またその財源について伺いたいと思います。

[08:17] 建設課長： はい、質問にお答えします。除雪予算の推移について説明いたします。令和 6 年度、6 億 6000 万円が除雪費用です。令和 5 年度 2 億 7000 万円、令和 4 年度 5 億 2000 万円、令和 3 年度 4 億 1000 万円という 4 年間の実績です。財源につきましては、財政課の方からお願いします。

[08:55] 財政課長： 私の方から、除雪費にかかる財源につきまして答弁をさせていただきます。除雪経費のうち、不足額、全体の不足額の 1/2 程度を財政状況に応じて普通交付税と特別交付税で配分をされるという規定になっております。令和 6 年度

に関しましては、まず普通交付税で経常的な経費分といたしまして約 1 億 8000 万円が措置されたということでございます。また特別交付税につきましては臨時的経費を措置するということになっておりますので、残りの 1/2 までということになりますと約 1 億 5000 万円程度が措置されているものと推計をいたしております。さらには、全国的な降雪量が非常に多い年につきましては、地方財政全体での措置だけでは間に合わない場合、国の補助金が交付されます。令和 6 年度に関しましては、対象となります幹線市町村道に対しまして、1 億 2100 万円の国庫補助金が交付されております。なお近年ですと令和 4 年度で 8200 万円、令和 3 年度で 3200 万円の国庫補助金が措置をされております。

[10:18] 吉川遂也 議員： 予算については、当然、これが不足してもう除雪は難しい、あんまり雪が降ったら除雪はできないぞという状況にはないという理解でよろしいですか。

[11:26] 財政課長： ご質問にお答えいたします。先ほど説明いたしましたように、除雪経費の 1/2 程度につきましては、まずは経常経費分として普通交付税が算定をされる。そこで不足する部分について、いわゆる普通交付税で補足できない経費については特別交付税が措置をされてくるということになります。さらには、幹線市町村道に限られますが、豪雪線にあたっては、国庫補助金も措置されているということなので、実績には概ね 1/2 もしくはプラスアルファの国庫補助金が措置をされているという予算状況でございます。

[12:04] 吉川遂也 議員： 暮らしにとって非常に重要な予算であるということであれば、庄原市としても予算がないから除雪はしないとかできないとか、今年度は除雪予算は削減していこうとかいうことはないという、市民の皆さんに冬の間もどんな所に住んでいても、生活や暮らし、自分の都合による外出、医療についてもそうです。様々な外出について支障がないぐらい、しっかり庄原市は除雪をして暮らしを支えていくんだと、先ほど市長答弁にありましたように、安定的で雪に強い街づくりを目指していただきたいという思いもありますので、その辺のメッセージを市民に対して少し話していただければと思います。

[13:06] 建設課長： はい、質問にお答えします。雪に強い街づくり、これを市として目指しております。若い奥さんが町から来られて、「庄原はいいところです、住みやすいところです。しかし、冬の 4 日間が怖いんです。子供を連れて保育所へ行って仕事へ行く時に、初めて雪道を運転して死にそうでした」ということを聞いたことがあります。その 4 日間、その苦しさ怖さというのは、雪道を運転する私たち、またしたことがない方にとっても不安だと思います。そういう不安を取り除くためにも、雪に強い街づくり、そして一人暮らしや、デイサービスや医療で来られる方を待っている方に対しても不安を取り除くように災害に強い町を目指しております。

[14:13] 吉川遂也 議員： 今後の除雪の最適化をする方法、先ほど予算の面もありましたが、予算的に使えるからどういう除雪方法でもいいということではないと思っております。最適化をして無駄なところは省く。それから今後長く除雪ができるような体制を構築するという観点で、質問を進めていきます。次の質問に移ります。現在の画一的な除雪対応では、限られた人員と機械を効率的に活用しても、市民ニーズに的確に答えることは困難ではないかと考えます。群馬県前橋市や新潟県上越市などでは、降雪量に応じて出動体制を変える段階的除雪計画や道路の重要度で優先順位をつける路線区分を導入し、大きな成果を上げています。本市においても、こうした客観的な基準に基づく計画を策定し、市民に公表すべきと考えますが、見解を伺います。

[17:14] 市長： ご質問にお答えいたします。本市の道路除雪計画は、降雪時における道路交通の確保により、市民生活の安定を図ることを目的に、広島県北部建設事務所庄原支所と連携し策定をしております。この計画では、除雪期間や準備、交通規制、作業に関する注意事項等を定め、降雪地域に応じて柔軟に対応できる出動体制を構築しております。さらに、除雪機械の相互利用や国県道、市道で相互の乗り入れを実施することで、効率的な除雪作業となるよう調整を図っております。広大な市域を持つ本市においては、地域間の降雪量に応じて効果的に除雪を行うため、現計画に基づき対応している状況でございます。本市除雪作業の状況等の公表につきましては、除雪業者、自治振興区、広島県と連携協議し、効果的な方策などを検討してまいります。

[18:37] 吉川遂也 議員： 柔軟な除雪体制を構築しているという風に答弁があったと思います。柔軟な除雪体制を構築しているということで、不足の事態にも柔軟に対応できる体制はあるという風には考えております。しかしながら、ある意味除雪の事業者に、ある程度判断を任せたりということが多くなってくると、そこで市民のニーズとの乖離が若干生まれてきているのではないかという観点で、質問を続けます。すでに、先ほど柔軟な対応ということで、それはある意味その場しのぎかもしれない。結果的に冬の間、難儀はしたけども除雪はうまくいった、今年もこれで終わりだというのが今までの体制だという風に思っています。災害級の雪が降った場合には、この道路はこれぐらいの除雪をする必要がある、この道路は先に除雪する必要があるというような計画を、透明性のある判断を持って資源配分のルールを決めるということが、今後必要になってくるのではないかと考えて、質問をさせていただいております。こういった点について所見があれば伺いたいと思います。

[21:13] 建設課長： 現在、庄原市の除雪体制としまして、まず国県道を広島県が除雪を行います。47 路線、県境の 314 号線、三坂峠や、西城の 183 号線の方につきましては 10cm を目途に国県道が除雪に入ります。そして市道、庄原市の除雪体制としましては、1707 路線を 54 社で除雪を行います。市の除雪につきましては、基本支所のエリアで動きます。そして支所の指示で出動します。エリアによる段階的な除雪をやっております。総領、旧庄原、東城町中と川北、西城高野等では雪の量が違いますので、各支所のエリアで雪の量が達した時に段階的な除雪をやっております。議員がおっしゃいました通り、明確な基準を作成することによって市民の理解を得られるのではないかという質問ですが、確かに明確な、大雪警報の時にはここ、大雪警報が発令して何 cm 以上の時には 1 車線除雪するといった明確な基準は設けておりませんが、今現在、幹線道路につきましては大型車両がまず動き、その後支線については幅の小さい車両が動くという形で、雪の量、エリアでの段階的、そして地域での路線の選択で稼働という形で、柔軟な形をしております。おっしゃる通り、他市の事例やそうした計画を取り入れ、今後、県道もありますので、広島県とも調整しながら研究が必要であると考えております。

[23:48] 吉川遂也 議員： そういった計画を今も検討しながら研究されるということであれば、今後それを市民に対してどのように公表していくかが必要になってくるかと思います。除雪に関する計画を策定した上で市民に公表すると、先ほどから申しておりますが、大事なのは、今回の雪は大雪レベルの除雪体制でなっているということが、事業者、市も当然そうですが、市民の中でも共通認識を持っていただくということなのかなと思います。計画の中ではっきり分かっていれば、今回は大雪体制で除雪体制は運用していると市民に分かりますと、「なんでうちの道は早く来ないのかな」と思っても、「今回は大雪の体制で対応しています」と明確に答えることができるんじゃないかと思います。道路の優先についても計画する際には、地元の自治会、自治振興区、あるいは社協、民生委員といった方々としっかり協議をしていただいて、どういう計画を持って除雪を優先度、あるいは必要度を検討していただきたいと思っております。その分こちらの路線を早く除雪できる、例えば、「ここは、今もう老人ホームだけです」とか、「もう空き家ですが年に1回ほどしか家には帰ってきてないんですよ」という情報も出てくるかもしれません。「じゃあ、この路線については少し遅らせますが、その代わりこちらに皆さん住んでおられる道は少し早く除雪できるかもしれません」ということが、交渉の中で、地元の自治会あるいは振興区の方で、より生活に密着した計画を共有できるんじゃないかと思いますが、見解があれば伺いたいと思います。

[29:37] 建設課長： 先ほど議員が言いました、自治振興区、民生委員、市民等との協議の中で、大雪時に備えた路線の選択というのは、確かに大事なことだと思います。その中で、今後高齢化し、除雪業者等の人員が少なくなってくる中でも路線の見直し等も含める中で、地元の皆さんの意見を聞いたりしていく中で良いアイデアや良い路線の効率性が出てくることがあると思いますので、そうした話し合い等は大事であると思っております。

[30:27] 吉川遂也 議員： そうですね、地元の方とそういった本格的な中身について触れながら、本当にどうするのが最適化になるかというところを協議していただく、非常に大事なことだと思います。大雪の時にはこの路線は先に除雪して欲しいということもあろうかと思います。もしかしたら、市の方が最高のサービスをいっぺんに提供するのは無理なんだと市民の方にも理解していただく、これも大事なことだと思います。じゃあ、その道はうちらで除雪しましょうかと。振興区、あるいは自治会、以前、生活除雪をするため

の機材の貸与ということもありました。その機材をずっと今も大事に保持しながら使っております。実際そういったところで今も活動されている自治会、振興区は多いと思いますが、そういった地元の住民の方の協力も得ながら、危機の時にはみんなで協力しようと。「この路線に入るのは 2 日 3 日後になるかもしれない」ということが先に分かっておれば、地元の住民の中でそういった機材を使ったり、あるいは自分の機材を使ったりすることで、「この路線については我々で責任を持って除雪しましょうか」という建設的な話もできるんではないかと思います。当然それには、除雪のある程度の費用を見てあげないといけないかなとは思いますが、こういった除雪体制を、危機の時、大雪の時、災害級の危機の時にはみんなで協力して乗り越えようという共同の精神、共同の除雪体制、こういったものを構築する必要があるんではないかと思います。先ほど来、土木事業者さん、50 数社との契約の中で除雪の契約をしていると、あるいは農業法人、それから住民の方との除雪の契約があるとお話をいただきましたが、成功している例、それがうまく機能している例があれば、教えていただければと思います。

[32:37] 建設課長： 成功している例として、自治会、地元の集落、個人へリース機材を渡しまして、そのリース費用につきましては市が払います。そのリース機材を活用して、自分の地域は自分で開けるという形で、今、地元、自治会、農事組合法人等が 16 社動いております。元々は建設会社でありましたが、建設会社が減っていく中で、そういった形でも動いていただいているところが成功事例と、その方からも苦情は聞いておりません。成功事例と思っております。

[33:37] 吉川遂也 議員： 今後も、災害級の雪が降った時、そういった時でも様々な手段でこういった状況を克服するのが、雪に強い街づくりに繋がっていくのだと思っております。雪が降る前の準備を多くの人を巻き込んで進めていただきたいというお願いをして、次の質問に移ります。北海道室蘭市などで導入されているスマート除雪システムでは、除雪車に GPS を搭載することで、運行状況をリアルタイムで把握管理することができるようになっています。効果として効率的な配車が可能となって、住民も除雪状況をリアルタイムで知ることができることから、不安感の解消にもつながっています。また、作業報告の業務量軽減にもつながっています。こうしたシステムの導入を検討されないか見解を伺います。

[34:39] 市長： ご質問にお答えいたします。スマート除雪システムは、昨年度広島県において試験運用され、本市におきましても一部路線において共有したところでございます。このシステムは、除雪車両の運行状況をリアルタイムで把握し、作業報告資料の作成をシステムと連携させることで事務負担の軽減と除雪作業の効率化を目指す目的として実施されたものであり、除雪の状況を公表できれば、市民の不安解消にもつながるものでございます。本市としましても除雪車両の位置情報を迅速に把握することができ、各方面からの問い合わせ等への対応に一定の効果があったものと考えております。しかし、試験運用時に県が実施した除雪業者からのアンケートやヒアリング結果によると、作業報告資料の作成時に手直しが必要となることや、山間部では位置情報を誤認識する場合があるために正しい位置情報が表示されないなどの意見が出され、本格導入に向けてはシステムの改善が必要となっております。このため、昨年度の試験運用結果を踏まえ、県におきましてシステムの導入効果やコスト面などの検証を進めているところであり、検証結果を踏まえて今後の本格導入の方向性を整理すると伺っております。本市におきましても広島県の取り組み状況を参考に、システムの導入におけるメリットや課題を整理し、導入の可否について調査研究を進めてまいります。

[36:32] 吉川遂也 議員： 先ほどあったように、県は若干試験的に進めているという話は聞いておりました。県の結果の中で、なかなかうまくいっていないというシステム上の問題もあるのかなと思います。ですが、それが順調に運用された時のメリットを考えますと、市民からしたら、いつこの路線は開くのかな、いつ来るんだろう、今どこを行っているんだろう、この路線が通るならこっちを先に通れるのかなという検討もできるのかなと思います。一番市民がストレスに感じるのは、いつ開くか分からない、どこを通れるか分からないという情報がリアルタイムで共有できないという点にあるのかと思います。そういった苦情について、市へ対するものがどれぐらいあるのか、あるいは苦情の対応体制についてどのようになっているかお伺いしたいと思います。

[37:30] 建設課長： はい、質問にお答えします。苦情の状況、先ほど議員が言いましたように、「うちの前はいつ来るのか」「確かにうちの前の道を通ったけど先に行った」とか、そういう電話が除雪時には 1 時間に 5、6 本はかかってきます。それを本社の職員、

支所等は、それを受けて対応し、「今動いてますので、もうしばらく待ってください」と答えている状況です。それと、意外とクレームが多い、そういうことが多いのは雪が少ない地域でありまして、雪が多いところは少ないという分析もあります。以上です。

[38:27] 吉川遂也 議員： 話に聞くところによると、除雪の事業者に直接電話をされることも多々あると聞いています。そういった状況を市として把握はされているのかどうかだけお伺いしたいと思います。

[38:43] 建設課長： はい、除雪事業者への連絡が入っていることについても確認しております。除雪事業者からも「こういうのがあったんですが、どうしましょうか」というのは逆に逐次入ってきております。

[38:58] 吉川遂也 議員： 一部試験的にでも導入してみて、運用実績、あるいはデータを取っていく、そういったことで、今後の新しい情報を蓄積した中で、除雪の計画はどういう風にするのが一番低コストで効率的で、皆さんの期待に沿うことができるかということを検討するためのデータの蓄積は必要なのかなと思っております。除雪の機械を、安全に、そして効率的に動かせるということは誰でもできることじゃないと思います。熟練のオペレーターのテクニックが非常に必要で、今後そういった熟練オペレーターの方々がだんだん退職される中で、そこを維持していくのが非常に難しい状況になってきているのかなと思います。今の最新の技術で言うと、その GPS、日本の「みちびき」というデータを使えば、数 cm 以内のルート設定、それに機械が連動させて、見えない危ないところを除雪するのも安全にできるという技術もどうやらあるようですが、そこまで必要ではないと、庄原市にとっては必要ではないとは思いますが、今後そういった熟練のオペレーター、除雪に精通した方々をいかに技術継承、あるいは養成していくかが大事かと思いますが、そういった点の考えがあればお伺いしたいと思います。

[40:38] 建設課長： 質問にお答えします。若い職員のオペレーターを育成していくためには、これからは ICT を使い、先ほど議員が言いましたように、GPS や ICT を使って、マンホールの位置、縁石の位置がすぐ分かるシステムがあります。そういうのをどんどん入

れていくことによって、熟練の方が去る中で、若い方が使いやすい、とっつきやすい形に、この時代では切り替えていくべきだと考えております。

[41:30] 吉川遂也 議員： 除雪作業には雪の条件、最近の雪は除雪が大変しにくい雪が降っているのはよく分かっております。そういったことも含めて、その除雪が上手かどうかっていうのは、結構よく分かる状況が見えるかなと思います。朝早くから危険な路線、幅員がよく分からないところを、除雪作業の方々は慎重にやっていただいている。しかしながら、除雪のスピードも求められるし、安全も当然確保しないといけない。無茶な運転をすると機械も壊れるので、それは大変損害が大きいことで、そこもできないと。非常に難しい条件の中で除雪作業にあたっていただいている。そういった中で、雪が降るまでに、市民、我々や市の方としても、安全でスピード感のある除雪をするためにできることはしておかないといけないと思います。市の広報なんかでも毎年、除雪の邪魔になるようなものは撤去しておいてくださいというようなことは何度も出されているとは思いますが、そういったものの効果があるかどうか、そういった広報が十分に行き渡っているかどうか、その点の所管があれば伺いたいと思います。

[42:51] 建設課長： 除雪を効率的に進めるには、市民の皆さんの理解、これが一番あります。広報では言っておりますが、よく問題になるのが電柱があるので除雪できないとか、除雪した後電柱が曲がって、補修してくれとか、例えば、除雪した雪が車庫の前にまた来た、除雪に来いとか色々な苦情もありますが、理解をされている方が 7、8 割、協力してくださる方が多いです。多少そういうクレームもあります。それについては、今まで以上に広報や説明、協力のお願いをまだまだしていきたいと考えております。そうすることによって、効率的な早い除雪等を進めていきたいと考えております。

[44:20] 吉川遂也 議員： もう 1 点、市としての準備、市の方としては除雪機材が大型化しています最近、大変背丈も高い。そういった中で、早く除雪しろと言われましても、上に支障木があったり、横から木や竹が出ていれば、そこを降りて竹を切りながらの作業ということになるとなかなか進みません。除雪作業の安全性にもかかる問題だと思います。近年大変有効な手段として森林

環境譲与税を活用して、支障木の撤去ということをやっていただいて、市民にも大変好評な事業化がされております。日陰になるようなところで木を切っていると、雪解けも違う。凍結するようなところも早く溶ける。効果が大変あり、作業効率も進む。効果にとっては大変ある事業と認識しております。ただこれが年間 2000 万円の予算で全市にわたって行うということになりますと、集中できない、必要なところに予算が投下できていないのではないかという問題もあろうかと思います。特に豪雪地域にこの事業は必要なのかなと思っておりますが、除雪への効果を含めて、この森林環境譲与税を活用した支障木の撤去の事業について、今後の奉仕等を伺えればと思います。

[45:45] 建設課長： 質問にお答えします。森林環境譲与税を使っての支障木の撤去、非常に効果を生んでおります。地域の方からも非常に評判がいい事業で、切ってほしい路線が山積みになっております。しかし、先ほどお話ししたように 2000 万円という予算の中で今動いておりますが、これを活用しながら支障木の伐採は進めていきたいと思います。それと、除雪を行う前に大型機械が通る時に屋根等に当たるにつきまして、除雪の準備工という形で、多少でも邪魔になるものは業者の方で取っていただく形も取っております。それについても費用の方をしっかり見て、除雪の障害にならないような形を進めていきたいと考えております。

[46:49] 吉川遂也 議員： いずれにしましても、雪が降る前までにできることはやっておかないと、雪が降ってからではもうできない作業ばかりです。雪が降っていない時に、私も先ほど 3、4 年前ぐらいまでの予算の消化金額ありましたが、何年前にいつどれだけ降ったかなというのはあまり記憶に残ってこないようになるんですね。去年は降ったような気がするな、去年は除雪結構したなという思いはありますが、3 年前はどうだっただろうかというのはなかなか記憶にない。そうしていたらすぐまた次の雪が降りますから、今の降っていない時期に雪のことをしっかり思い出して、計画を立てる、準備できるところは準備しておくということで、いつ降るか分からない大雪に備えるということが非常に大事かなと思いますので、先ほどの森林環境譲与税を活用した支障木の撤去、こういった作業も含めてお願いをして、次の質問に移ります。2022 年 12 月の大雪では、中国自動車道の通行止めに伴い、並行する主要地方道、庄原東城線に車両が集中し、大規模な交通麻痺が発生しました。特に急勾配と急カーブが連続する中山峠は構造的なボ

トルネックとなっており、過去にも繰り返し立ち往生が発生しています。解決するにはソフト面の対策と同時に、具体的なハード対策が不可欠であると考えます。庄原東城線、中山峠の東城側、すなわち峠の入り口にあたる場所に、大型車も安全に利用できるチェーン着脱場を整備すべきと考えますが、県と共同し事業化する考えがないか見解を伺います。

[48:45] 市長： はい。ご質問にお答えいたします。主要地方道庄原東城線は、庄原地域の国道 432 号線と東城地域の国道 314 号線を接続する路線として共用され、中国縦貫自動車道の通行止め等の規制時には迂回路として利用されるなど、大型車両等の通行も含め、交通量が比較的に多い路線であります。本市では、当路線の雨連地区におけるバイパス整備について、広島県へ継続的に要望している状況でございます。ご質問にあります東福谷地区は、急勾配でカーブが連続するなど道路線形が悪いため、大雪時には大型車両が立ち往生する事態も生じる状況であると認識しております。チェーン着脱場設置要望につきましては、設置場所や規模、費用対効果などを検証し、広島県と協議を進めてまいります。以上です。

[49:55] 吉川遂也 議員： これまでも数度、中国自動車道の通行止めに伴う大変な交通麻痺が発生しました。東城から庄原に向かう迂回路として、ナビで示されてきます。ナビで示された時には、私の地元である小奴可を回って庄原に出るという、特に厳しいナビを示されることがありました。その際に何台も車がスリップして、側溝にはまったり、田んぼに突っ込んだりということが起こりました。東城で止められているということは、大阪方面から来られる方なので、雪に全く慣れていない方。大変危険な思いをされたというお話も何人から聞いたことがあります。地元で一生懸命それを救助したこともありました。これまで何度もあったことは、またこれからもあるはずです。先ほど、県と協議をして事業を取り組むという風に答弁をいただきましたが、しっかりと協議をしていただいて、整備についてはお願いをしたいという風に思います。今回の質問でずっと述べておりましたが、雪を原因とする様々な問題、これは春になれば必ず雪と同じように消えていく問題です。次の大雪に備えて、昨年の反省に立って、雪が降るまでに対応できるところは対応すると。住民の暮らし、生命、安全、社会経済活動をしっかり守る、そのために庄原市は、雪の降らない時から行動し、計画を立て考えをまとめていく必要があるのではないかと考えます。平野部、山間部、様々な地理的状況を持つ本市で、人口動態、

経済活動の高低に関わらず、どこに住んでいても一定の行政サービスが受けられる雪に強い街づくり、市民と一緒に作っていこうという思い、そういった思いを今日の質問の答弁の中で、お伺いできたかなと思います。最後に、市道除雪に対し、市長の思いがあれば伺いたいと思います。

[52:13] 建設課長： 失礼します。雪に強い街づくり、冬だけではあります。確かに春にはまた消えてしまいますが、雪が降っても安心して安全に職場、学校、病院等へ帰れるように、雪に強い街づくり、これをめ目指して、これからも今年度も進めていきたいと思います。

[52:50] 吉川遂也 議員： 以上で終わります。

[53:03] 議長： 以上で吉川遂也議員の質問を終わります。この際、暫時休憩いたします。再開は午前 11 時 5 分といたします。